



報道関係者各位
プレスリリース

令和3年11月1日
大阪天満宮
天満宮会館

大阪天満宮 悪疫退散を祈念し『大祓詞書写奉納事業』を11月29日より定期開催 ～奉納一万巻を目指す～

大阪天満宮(宮司:寺井種治)は、天満宮会館を会場に新型コロナの早期終熄と市中平安を祈念して、「大祓詞(おおはらえのことば)書写 奉納参拝事業」を、一般の方々を対象にして、本年11月29日より継続的に実施致します。

大阪の夏の風物詩と言われる「天神祭」は、本来、夏の悪疫退散(あくえきたいさん)を祈念し、「禊祓い(みそぎはらい)」を行ったことが由来であり、約千年にわたり、祓えの神事を中心に連綿と受け継がれる、日本を代表する祭になっています。

「大祓詞(おおはらえのことば)」とは、神道の祭祀で奏上される祝詞(のりと)の中でも特に重要とされ、大阪天満宮でも日々毎朝、神職が本殿にて奏上しているものです。

この度の「大祓詞書写及び奉納参拝事業」は、より多くの方々に趣旨にご賛同いただき、書写をご自身で行っていただくことで悪疫退散を願う事業として、どなたにでもご参加いただける行事としており、より多くの方々のご参加をお待ちしております。

書写会は本年11月29日を第一回目として、以降毎月25日前後に大阪天満宮境内「天満宮会館」にて開催し、概ね50名程度のご参加のもと、当宮神職による大祓詞についてのご案内や本殿参拝も併せて実施させていただきます。

また、書写会以外でも「大祓詞の書写用紙」を広く頒布させていただき、奉納一万巻を目指す事業として、広く参拝者、崇敬者の皆様と共に、悪疫退散を願う事業にさせていただこうと考えております。

どうぞ、この機会に本事業にご賛同ご参加いただき、皆様とともに日本の安寧を願い、祈りを捧げたいと考えており、多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

詳細は、下記をご参照ください。



記

1. 開催概要

- ① 催事名称:大阪天満宮 悪疫退散「大祓詞書写及び奉納参拝事業」
- ② 主催運営:主催は大阪天満宮 運営は天満宮会館
- ③ 会 場:天満宮会館(基本会場)
- ④ 開始時期:令和3年11月より開始
- ⑤ 開催頻度:毎月1回開催 初回は11月29日(月)
- ⑥ 開催日程:毎月25日前後に開催
- ⑦ 開催時間:15:00～17:00
- ⑧ 参加費用:書写会:3000円【書写用紙セット(用紙2枚と筆ペン1本入り)と書写会参加】
大祓詞奏上参拝付:5000円【書写用紙セット+書写会+奏上参拝】
書写用紙セットのみ:2000円(書写会参加者で追加希望の方)
- ⑨ 参加定員:50名(毎月の書写会及び奏上参拝の定員)
- ⑩ 注意事項:コロナ禍の対策として、マスク着用、手洗い、消毒をお願いします。

2. 書写会のスケジュール

- 14:30-15:00 参集・受付
15:00-15:05 書写会主催者挨拶
15:05-15:30 大祓詞について(神職による講話)
15:30-16:30 大祓詞書写
(移動10分)
16:40-17:00 特別参拝

3. 書写いただいた大祓詞の奉納について

- 1) 毎月の大祓詞書写会に引き続き、大阪天満宮本殿にて神職とともに特別奏上参拝への参加
- 2) 書写会の後日、書写いただいた大祓詞を大阪天満宮にご持参いただきましたら、大祓詞書写奉納証明書(日付入り)をお渡しいたします。

4. 申し込み方法

- 1) 申し込み開始:令和3年11月1日～
- 2) TELにて:大阪天満宮(06-6353-0025)(書写会担当 広報室 宛)
- 3) ホームページから:メールにて info@osakatemmangu.or.jp へ(書写会担当 広報室 宛)
- 4) 毎月の定員(50名)に達した段階で、電話対応及びホームページにてお知らせします。



5. 書写用紙



サイズは、横 90cm×縦 30cm。写真は折り込んで撮影したものです。

6. 大祓について(神社本庁ホームページより転載)

大祓は、我々日本人の伝統的な考え方に基づくもので、常に清らかな気持ちで日々の生活にいそしむよう、自らの心身の穢れ、そのほか、災厄の原因となる諸々の罪・過ちを祓い清めることを目的としています。

この行事は、記紀神話に見られる伊弉諾尊(いざなぎのみこと)の禊祓(みそぎはらい)を起源とし、宮中においても、古くから大祓がおこなわれてきました。中世以降、各神社で年中行事の一つとして普及し、現在では多くの神社の恒例式となっています。

年に二度おこなわれ、六月の大祓を夏越(なごし)の祓と呼びます。大祓詞を唱え、人形(ひとがた)(人の形に切った白紙)などを用いて、身についた半年間の穢れを祓い、無病息災を祈るため、茅や藁を束ねた茅の輪(ちのわ)を神前に立てて、これを三回くぐりながら「水無月の夏越の祓する人は千歳の命のぶというなり」と唱えます。また、十二月の大祓は年越の祓とも呼ばれ、新たな年を迎えるために心身を清める祓いです。

私たちにとって、その年々の節目におこなわれる大祓は、罪や穢れを祓うとともに、自らを振り返るための機会としても、必要なことではないでしょうか。